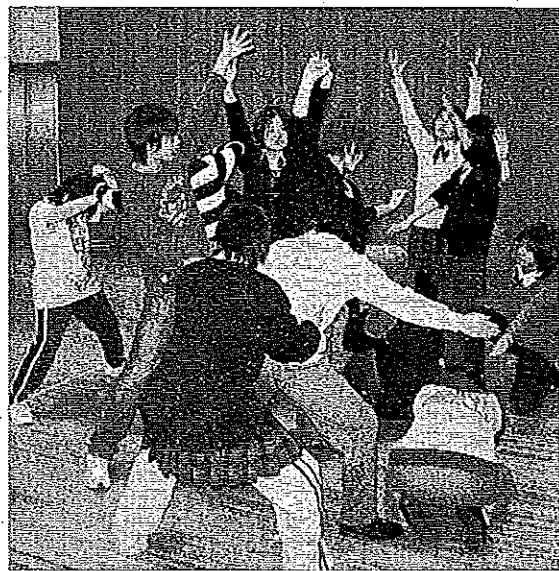


五感を駆使する「ドラマケーション」

人間関係、体で感じて

演劇と遊びを教育に導入



集団でオブジェになるドラマケーションのレッスン。全身で表現する心地よさを味わう—東京・新宿の東放学園高等専修学校

他者を認める懐の深さ、身に

相手の存在を体で感じ、自分を素直に表現する。そんなコミュニケーションの基本を学んでもらおうと、演劇と遊びの要素を取り入れた教育プログラムがある。名付けて「ドラマケーション」。開発した高等専修学校講師の正嘉昭さんは「傷つ

くのが怖い最近の子どもも、人間関係の味わい深さを「気づく」と話。ダンススタジオのような教室を歩き回る生徒たちだが、同時にスッと止まり、合図や掛け声なしで息を合わせた十四人の顔に、少し誇らしげな笑み



「ニコニコ笑い合っている子どもも、実は傷つきのを恐れて体を硬くしている」と話す正嘉昭さん—東京・新宿の東放学園高等専修学校

表情や動作で相手や周囲の状況をとらえ、自分の意思や感情を伝える多彩なレッスンが続く。二人で背中合わせに床に座り、互いに体を預けながら立てるか。順番を決めない点呼のように一から数え、誰かと重ならずにいつまで続くか。ゲーム感覚だが、五感を駆使しなければならぬ。正嘉

部を1-4分で捕食したが、左巻きでは約30%を失敗。かかる時間やあごを動かす回数も左巻きだと約60%多く、手間取っていた。

下あごの右の歯は、平均25本と、左の17.5本の約1.4倍だった。

細さんは「このヘビはふ化直前の段階から右の歯が多い。東南アジアでは左巻きのカタツムリが比較的多く、ヘビに捕食されないよう進化したと思われる」と話した。

た実験用メダカ

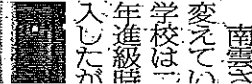
溶液に雄のメダカ100匹を入れた。約80匹が生き残り、これと健康な雌との間で生まれた雄5760匹の精子を凍結保存した。

メダカのゲノム(全遺伝情報)は解読されており、保存した精子のDNAを解析し、目的の遺伝子が壊れている精子を特定、これを健康な雌の卵子と人工授精した。生まれた世代同士を組み合わせると子どもをつくった。通常は一つの遺伝子を両親からそれぞれ受け継ぐが、この方法で両方の遺伝子が破壊されたメダカができた。



して腸がんを発生させたメダカが発病した腸管(京都大提供)

いつも明るい自分のところから大好きな方



LD 明彦さん、しみは、アップのつた。ハつは頭分かつた

